

Title	関西方言のヤンナとヨナ
Author(s)	松丸, 真大
Citation	阪大日本語研究. 2007, 19, p. 1-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12296
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

関西方言のヤンナとヨナ '-yanna' and '-yona' in Kansai Dialect

松丸 真大
MATSUMARU Michio

キーワード：関西方言、ヤンナ、ヨナ、確認要求

【要旨】

本稿では、関西方言で用いられるヤンナとヨナという文末形式の意味・用法の違いを、標準語の「よね」と対比させる形で考察した。その結果次の点を明かにした。(i)ヨナは名詞型活用の述語と共起できないが、ヤンナにはこのような制限はない。(ii)ヨナは知識提示の用法をもたず、ヤンナは行為指示表現に接続する用法や独話用法でもちいにくい。(iii)ヤンナ・ヨナの基本的意味はそれぞれ、「話し手の中で既に定着している知識・判断について、それを既定事項として提示し聞き手の反応を要求する」(ヤンナ)、「話し手を取りまく状況や一般通念を土台として推論・判断した事柄について、聞き手の判断との一致をはかる。あるいは、既に共有している事柄について、一般的なこと当然のこととして談話の場に提示する。」(ヨナ) というものであると考えられる。

1. はじめに

本稿は、関西方言で用いられているヤンナ・ヨナという形式をとりあげ、その意味・用法の違いを明らかにするものである¹⁾。当該方言では次に示すように、ヤンナ・ヨナが標準語の「よね」相当の意味で用いられる。

- (1) a. あなたも行くよね。
b. あんたも行く {ヤンナー／ヨナー}²⁾。

これら2形式は、関西若年層の話しことばの中で頻繁に現われる形式である³⁾。

- (2) [サークルの追い出しコンパをどうするかという話の中で]

6-80B : なんか も、「くっだらねー」って ゆうやつを やらしたいよなー
なんか。{間}うん、なんか その辺の連れ〈よく一緒にいる友達〉と
でも できるような事は あんま したくないよなー。

- (3) 1-203B : うん。せや あたしな、ディズニーランド 行く つつたやんな、

んなな、あのー バイト先の奥さんがな、この夏にな、ディズニーランド 行ってきてな、あたしーとな、もう一人の人にな、お土産 くっ、
くれてんやん。

ヤンナ・ヨナは、それぞれ標準語の「じゃんね」「よね」に対応する形式であるが、(1)のように表現効果が接近することがある。一方で(4)のように、どちらか一方の形式しか用いられないこともある。

(4) a. 昨日、梅田に行ってん{ヤンナー/*ヨナー}。そしたら先生に会って...
(昨日梅田に行ったんだよね。そうしたら先生に会って...)

b. [独り言で]あの人もひどいことする{*ヤンナー/ヨナー}

本稿の第一の目的は、(1)(4)のようなヤンナ・ヨナの生起環境の違いを記述することにある。つまり、2形式がどのような用法で適格/不適格となるかを整理するわけである。

また、ヤンナ・ヨナの両方が適格となる文であっても、どちらの形式を用いるかによってニュアンスが異なることが多い。例えば、

(5) あそこのラーメン、おいしい{ヤンナー/ヨナー}

という文では両形式が適格となるが、ヤンナを用いると「押しが強い」という印象を与える。このようなニュアンスの違いが現れる理由について考察するのが、本稿の第二の目的である。

本稿の記述は主に筆者の内省をもとに行う⁴⁾。なお、煩雑さを避けるために一々の例でことわることはしないが、用例には蓮沼(1992、1995)や宮崎ほか(2002)、日本語記述文法研究会編(2003)のものを用いることがある(当該方言の状況に合わせて適宜変更することもある)。

以下、§2では共起関係や文中の位置から2形式の分布を整理し、§3で用法の違いについて考える。これらを踏まえ、§4ではヤンナ・ヨナが表す意味について考察し、そこから2形式のニュアンスの違いについて考えてみたい。

2. 共起関係など

本節では、ヤンナ・ヨナの文タイプとの共起、活用型との共起、文中での位置、音調との共起関係について考察する。

まず、文タイプとの共起関係から見てみる。ヤンナ・ヨナは、原則として平叙文にのみ生起し、疑問文、命令文、意志・勧誘文に現れることはない⁵⁾。

- | | |
|-----------------------------|----------|
| (6) 俺、昨日、めがねここに置いた {ヤンナ/ヨナ} | 《平叙文》 |
| (7) a. *誰が行く {ヤンナ/ヨナ}? | 《疑問詞疑問文》 |
| b. *お前、明日行く {ヤンナ/ヨナ}? | 《選択疑問文》 |
| (8) *早く行け {ヤンナ/ヨナ}! | 《命令文》 |
| (9) a. *よし、俺も行こう {ヤンナ/ヨナ} | 《意志文》 |
| b. *あんたも一緒に行こう {ヤンナ/ヨナ} | 《勧誘文》 |

選択疑問文の例(7b)ではヤンナ・ヨナが自然に生起するように見える。しかし、これはヤンナ・ヨナが聞き手に対して何らかの返答を要求するということから生じているものであり、疑問文に生起しているとは考えにくい。ここでは、ヤンナ・ヨナは原則として疑問文に生起できないと考えておく。

また、ヤンナは次のように相手の発話を受けて単独で用いられることがあるが、ヨナはこのような用法を持たない。

- (10) A : あそこのラーメン、けっこうおいしいねー。
 B : {ヤンナー/*ヨナー} でもあいつはまずいって言うねん。

次に述語の品詞との共起関係について確認しておく。次例に示すように、ヤンナはどの品詞にも問題なく接続できるが、ヨナの場合は形容動詞(ナ形容詞)述語との共起がやや不自然であり、名詞述語(の非過去形)との共起がかなり不自然となる。

- | | |
|---------------------------|--------|
| (11) a. 昨日、雨降った {ヤンナ/ヨナ} | 《動詞》 |
| b. あの、私より背高い {ヤンナ/ヨナ} | 《形容詞》 |
| c. あの、最近静か {ヤンナ/?ヨナ} | 《形容動詞》 |
| d. あそこの制服って学ラン {ヤンナ/??ヨナ} | 《名詞》 |

なお、名詞型活用の助動詞でもヨナは不自然となるが(12)、形容詞型活用の助動詞とは問題なく共起することができる。したがって、(11c)や(11d)の例も過去形や否定形であれば不自然さは解消される。

- | | |
|-------------------------------------|----------|
| (12) あいつ韓国行く {はず/ところ} {ヤンナ/??ヨナ} | 《名詞型活用》 |
| (13) a. あの、最近静か {やった/じゃない} {ヤンナ/ヨナ} | 《形容詞型活用》 |
| b. あそこの制服って学ラン {やった/じゃない} {ヤンナ/ヨナ} | |
- 活用によるヤンナ・ヨナの適格性をまとめると、表1のようになる。

表1 活用によるヤンナ・ヨナの異同

	ヤンナ	ヨナ
動詞型活用	○	○
形容詞型活用	○	○
名詞型活用	○	??

述語の意味ではなく活用の違いが重要になっていることから、単に断定辞ヤとヨの連鎖が避けられているものと考えられる⁶⁾。

次に文中での位置であるが、ヤンナ／ヨナともに他の文末詞と共起することはない。伝聞の「らしい」、証拠性判断の「みたい」、推量の「やる(う)」、可能性判断の「かもしれん」との共起関係は次の通りである。(14)～(17)から分かるように、可能性判断の形式としか共起できない。

- (14) *あいつ、今度結婚するらしい{ヤンナ／ヨナ}
 (15) *天気予報によると、雨が降るみたい{ヤンナ／ヨナ}
 (16) *たぶんあいつも行くやる{ヤンナ／ヨナ}
 (17) もしかしたら雨が降るかもしれへん{ヤンナ／ヨナ}

なお、どちらの形式も丁寧形式とは共起しにくい。

- (18) *佐藤さんって確か東京に引っ越したんです{ヤンナー／ヨナー}
 (19) *店長、明日も店を開けます{ヤンナー／ヨナー}

ヤンナ／ヨナは音調によって表す意味が異なる。ここでは、ヤンナ／ヨナがどのような音調とともに現れるかを記述しておく(意味と音調の関わりについては、§3で述べる)。ヤンナとともに現れる音調には大きく分けると次の3種類がある。低く発音される部分を下線で表す。

- (20) a. あそこのラーメン、おいしいヤンナー↘。
 cf. あんたも行くヤンナ↑。
 b. やっぱり行きたいヤンナー↗と思って。
 c. 昨日梅田に行ってんヤンナー↗、そしたらばったり先生に会って...

ヤンナの「ヤン」の部分が低い音調で現れる点は(20a)～(20c)で共通している。(20a)は「ナ」の部分で上がり、その後急激に下降する(「↘」で示す)。「ナ」が伸びずに発音された場合は単なる上昇調として発音される。(20b)は「ナ」の部分で上がる点は(20a)と同じだが、その後下がらずにそのまま高く発音される(「↗」で示す)。最後の(20c)は「ナ」が高くないが、文末で高く発音される(「↗」で示す)。

ヨナの音調はヤンナのそれとほぼ同じであるが、ヤンナの(20c)にあたる音調は無

い。

- (21) a. あそこのラーメン、おいしいヨナ↓。
 cf. あんたも行くヨナ↑。
 b. やっぱり行きたいヨナ→と思って。
 c. ??昨日梅田に行ってんヨナ↗、そしたらばったり先生に会って...

音調とヤンナ・ヨナの共起関係をまとめると、表2のようになる。

表2 音調とヤンナ・ヨナ

	ヤンナ	ヨナ
急下降調(↓)	○	○
平調(→)	○	○
上昇調(↗)	○	??

以上、本節ではヤンナ、ヨナの共起関係について整理した。

3. ヤンナ・ヨナの諸用法の整理

本節では、ヤンナ・ヨナの用法の違いについて整理する。記述に際しては、次のような標準語の「よね」の枠組みを用いる。(B)の例は金水(1998)より、(C)~(D)の例は蓮沼(1992)より引用する。

(A) テ形・命令形への接続 命令形や依頼を表すテ形など、行為指示を表す形式に接続する用法。

(22) そういうことは大人になってから言ってよね。

(B) 独話 特に聞き手を必要としない用法。

(23) あいつもひどいことするよなあ。

(C) 情報提示 聞き手が情報を保有していることが見込まれていない状況で「よね」を用いるもの。「の／ん／わけ(だ)よね」という形で使用される。また、「ね」の使用は任意的である。

(24) 綾子：あの、ちょっとそこまで来たんですよね。だから、もしお目にかかればと思って。

耕一：まだ帰ってないんだよね。

(D) 確認要求 聞き手に情報の保有が見込まれている状況で「よね」を用いるもの。次の2つに分けることができる。

(D-1) 話し手の認識は確かであり、聞き手のもつ認識との一致が確実に見込めるもの。共有する経験や一般知識のように、両者における一致が確実に見込めるような情報・判断について、あらためてそれを確認し合うような場合の用法。「当然、結局、やっぱり、どう考えても～そうだ」といった、当然性を帯びた判断や、「～とは～ものだ」といった意味の一般通念や、聞き手と共有する過去の経験を思い出して再確認するような場合に用いられる場合が多い。(蓮沼1992:70)

共有する知識・判断の再確認

(25) 桐子：いまさら男のことで喧嘩なんかできないわよね。

彩子：そうよね。

一般知識に裏付けられた判断の確認

(26) 桃子：いやらしい。

良介：いやらしくないよ、別に。

桃子：いやらしいよ、そんなもの一人で見ても。

良介：いやらしくないよ。

桃子：[ビデオショップの店員に]いやらしいわよねえ。

店員：そういうシーンもあるけど。

一般通念の再確認

(27) 由子：家もカレーにしよ……すきなのよねえ、みんなカレーが。

彩子：子供のときそうだったもの。

過去の共通体験の確認

(28) 一郎：あんたと二人で、旅行しないかっていったよね。

明子：はい。

一郎：実をいうと、私は、軽い気持ちだったんだよ。

(D-2) 話し手が何らかの事情で忘れていたり、無条件で断定できるほど確実な知識をもっていないような場合に、状況や過去の経験・記憶などの検証や、推論によって知識を呼び出し、自分よりも情報的に優位な位置にいる聞き手に確認するといった用法。(蓮沼1992:66)

話し手の記憶から呼び起こされた情報の確認

(29) 私、確か、ゆうべ、眼鏡ここに置いたよね。

推論から導出した聞き手情報の確認

(30) [映画関係の仕事をしている相手に対して]

「恋におちて」って、見たでしょ？…見てるよね、商売だもの。

聞き手の直接経験をめぐる確認

(31) いいのよ、私なんかと話したくないわよねえ。

傾向として(B)から(D)になるにしたがって、聞き手の認識状態に依存するようになることが指摘できる。以下ではこの分析枠を用いてヤンナとヨナの違いを整理する。

3.1 テ形・命令形接続

まず、命令・依頼を表す形式との共起について見てみる。標準語の「よね」には次のように依頼を表す動詞テ形に接続する用法がある。ただし、標準語の「よね」の場合には命令形に接続することはできない。

(32) そういうことはもうちょっと大人になってから { 言って / *言え } よね。

一方、関西方言ではヨナが命令形に接続することができるが、動詞テ形には接続することができない。また、ヤンナにはこの用法はない。

(33) a. 遅れるんやったら、はよ連絡せー { ヨナー / *ヤンナー }

b. ...はよ連絡して { *ヨナー / *ヤンナー }

「行為要求+よね/ヨナ」という文が誰に対する要求かという点を考えてみると、標準語の「動詞テ形+よね」の場合は聞き手に対する行為要求であるのに対して、関西方言のヨナの場合は聞き手以外の第三者への行為要求を表している。例えば、(32)は聞き手に対して「大人になってから言う」ということを要求しているが、(33a)の「早く連絡しろ」という要求は聞き手以外の第三者に対するものである。ここから、関西方言のヨナの場合には、「はよ連絡せーよ」という第三者への要求を「なー」という文末詞で聞き手と共有していると分析することができる。なお、当該方言の命令表現には上述の「命令形+ヨ」のほかに「命令形+ヤ」という形があるが、「命令形+ヤ」が「ナー」と共起することはない。

(34) a. *遅れるんやったら、はよ連絡せーヤナー。 【命令形+ヤ】

b. *遅れるんやったら、はよ連絡してーヤナー。 【テ形+ヤ】

この用法で現れる音調は急下降調であり、平調や上昇調では不自然となる。

(35) 遅れるんやったら、はよ連絡せーヨナー { ↓ / *↗ / *↘ }

3.2 独話

次に(B)独話用法では、ヨナは常に適格であるが、ヤンナは不適格になることもある。例えば次の例では、ヤンナ・ヨナの両方が適格となる。

(36) どうしてもそうなる {ヤンナー／ヨナー}

(37) [お願いをしたが断られた] やっぱりあかん {ヤンナー／ヨナー}

一方、次の例ではヤンナが不自然となる。ヨナを用いた場合は、目の前に聞き手がいたとしても独り言として解釈することができるが、聞き手を目の前にしてヤンナを用いた場合はどうしても聞き手に確認をとるという意味になってしまう。

(38) あいつもひどいことする { ?? ヤンナー／ヨナー }

(39) 気がついたら、もう12月なん { ?? ヤンナー／ヨナー }

上例のヤンナの適格性には、「独り言の内容が既に話し手の中で想定されていたものか、あるいは発話時に想起されたものか」という違いが関わっているように思われる。例(36)(37)では、「そうなる」「あかん」ということを想定しながら行動し、その結果「そうなる」「あかん」ということが明らかになった場合の独り言である。一方(38)(39)は、「あいつもひどいことをする」「もう12月」ということを発話の現場で初めて想起するものであり、そのためにヤンナが不適格になると考えられる。この「想定済みか否か」という点は、ヤンナを「ナー」に変え、「やっぱり」「当然」という副詞と共に起せるかどうかで判断することが可能である。

(40) a. { やっぱり／当然 } どうしてもそうなるなー。

b. { やっぱり／当然 } あかんなー。

c. ?? { やっぱり／当然 } あいつもひどいことするなー。

d. ?? 気がついたら、{ やっぱり／当然 } もう12月なんやなー。

また、この用法では(41)のように「～ノ(ヤ)」「～ネン」というノダ相当形式と共に独話的に用いられることがある。この場合、「あかんの {ヤンナ／ヨナ}」は「あかんネンナー」「あかんネンヨナー」とも置き換え可能になる。実際、(41) 8-33A ではその直前の「あかんのよな」という表現が「あかんねんな」という表現で言い換えられている。

(41) [試験勉強をギリギリまでしないという話の中で]

8-30B : { 咳 } でも 去年も それで なんとか なったからなー。

8-31A : それが あかんの { よなー／ヤンナー }。

8-32B : なんとか なるやろー？

8-33A : それが あかんねんな。なんとか ならんかったら、...

なお、独話用法と共に起る音調は、ヤンナ・ヨナともに平調(↔)だけである。急下降調(↘)や上昇調(↗)を用いると、聞き手に対して何かしらの反応を求めることを表してしまう。また、語尾は通常長く伸ばして発音される。

(42) a. それがあかんのヤンナー { *↘ / ↔ / *↗ }

- b. それがあかんのヨナー { *↘ / ↗ / *↗ }

3.3 情報提示

次に(C)情報提示の用法について整理してみる。この用法では、(43)(44)のようにヤンナのみが適格となる。次例はいずれも、話し手だけが体験したエピソードを語る場面である。そのエピソードの中で、これから話す上で前提となる情報を聞き手に提示する際にヤンナが用いられる。また、ヤンナを用いると発話のターンを握ったまま次に本題を提示するということが示される。したがって、聞き手側はあいづちなどを入れることができるが、発話のターンを奪うことは規則違反となる。

(43) 昨日、ふらっと昔住んでたアパートの近くに行ってみてん {ヤンナー / *ヨナー}。そしたら、近所の人にばったり会ってね...

(44) 明日、学校の前に歯医者に行こうと思ってんねん {ヤンナー / *ヨナー}。だからいつもより早起させなあかんから、今日ははよ帰るわ。

なお、この用法では「ヤンカー」と置き換えることが可能である。

(45) a. ...昔住んでたアパートの近くに行ってみてんヤンカー。...

b. ...歯医者に行こうと思ってんねんヤンカー。...

ただし、次のような例ではヤンナ／ヨナ共に不適格となる。

(46) 綾子：あの、ちょっとそこまで来てん { ?? ヤンナー / *ヨナー / ヤンカー }。だから、もし会えればと思って。

耕一：まだ帰ってへんねん { *ヤンナー / *ヨナー }。

(47) A：あの後、財布を落として大変だったらしいけど、大丈夫だった？

B：あの時は困ってん { *ヤンナー / *ヨナー }。財布を落として... (続く)

(43)(44)と(46)(47)の違いは次のようなものである。すなわち、前者は「これから話題としてとりあげる事柄のために共有しておくべき情報が、談話の場で共有されているかどうかを確認する」という意味をあらわす。つまり、ヤンナを含む文は情報としては聞き手に何も伝えることはせず、共有状態を確認しているだけである。これに対して後者の文は、ヤンナが含まれる文そのものに、聞き手に与える情報が含まれている。つまり、情報提示の用法の中でも新規情報を聞き手に伝えるような場合はヤンナを用いることができず、ヤンカのみが適格となるのである。なお、この用法の音調は基本的に上昇調(↗)で実現される。平調(↔)で発音された場合はヤンナの意味が独話的になり、ノダ形式の「実情を聞き手に伝える」という意味と合わなくなってしまう。急下降調(↘)の場合は聞き手に確認をとるような意味になり、談話を続けるというニュアンスが失われてしま

う。

(48) 昔住んでたアパートの近くに行ってみてんヤンナー { * ↘ / * ⇨ / ↗ }

3.4 確認要求

本節では、確認要求用法におけるヤンナとヨナの相違点・共通点について整理する。この用法においては、ヨナは上述の名詞述語との共起制限を除けばどの場合でも適格となるが、ヤンナは適格になる場合と不適格になる場合がある。また、「よね」の用法における「聞き手のもつ認識・判断と一致が見込めるか否か」という分類は、ヤンナの適格性には関係しない。以下、例をあげながら見てみる。

まず、ヤンナ・ヨナ共に適格となる例としては次のようなものがある。以下の例は蓮沼論文で「聞き手の情報・判断との一致が確実に見込める」例としてあげられているものである。

共有する知識・判断の再確認

(49) 桐子：いまさら男のことで喧嘩なんかできひん { ヤンナー / ヨナー }

綾子：そう { ヤンナー / ?? ヨナー }

一般知識に裏付けられた判断の確認

(50) A1：タイのお米ってまずいよな。

B1：そう？私はあの独特の香りが好きやけど。カレーには合うと思う。

A2：〔Cに向かって〕まずい { ヤンナー / ヨナー }

C1：うん、ちょっとな。

(51)〔B はディズニーランドにこれから行こうとしていたが、バイト先の奥さんからディズニーランドのお土産をもらってしまった〕

1-207B：「どうすんの 私 今から 行くのに」と 思って 「どーしょー」と 思ってん。お土産 買えへん { やんなー / ヨナー } その家。

過去の共通体験の確認

(52) 高杉：高三の時、高二の君と口をきくようになって、格好よく見せたくてさ。

季代：フフ

高杉：気に入りそうなこと、よう言うた { ヤンナ / ヨナ }

(53) 一郎：あんたと二人で、旅行しないかって言うた { ヤンナ / ヨナ }

明子：はい。

一郎：実をいうと、私は軽い気持ちだったんだよ。

(54) 1-203B：うん。せや あたしな、ディズニーランド 行く っつった { やんな

／ヨナ} んなな、あのー バイト先の奥さんがな、この夏にな、
ディズニーランド 行ってきてな、あたしーとな、もう一人の人
な、お土産 くっ、くれてんやん。

ところが、次の例のように話し手の評価を表す述語に接続する場合にはヤンナが不自然となる。例えば、次の例は「いい子だった」「(地震が)凄かった」という、話し手と聞き手がつもつ共通体験を確認している例であるが、ヤンナが不自然となる。

(55) 良雄：いい子やった{??ヤンナ／ヨナ}

健一：いい子やった。なんで、あんなのが、嘘なんかついたんだ。

(56)〔阪神淡路大震災の話〕

7-197A：そう。大変やった 凄かった{??ヤンナー／ヨナー}あれー。サリンも あったしなー その後は。

7-198B：ふふん。一年 振り返ってるなー すごい お前。

また、話し手と聞き手が共有している判断を再確認するもの(「共有する知識・判断の再確認」)の例でもヤンナが不自然となる例がある。

(57)〔聞き手Aは原付で二人乗りをしているところを警官に止められ、罰金を払うことになった〕

5-187B：なー 五千円で 高い{よなー／?ヤンナー}

(58)〔サークルの追い出しコンパをどうするかという話の中で〕

6-102B：{問}うん やっぱり 買い物系はー、……捜し物系は?

6-103A：面白い{よなー／??ヤンナー}

(59)〔サークルの追い出しコンパをどうするかという話の中で〕

6-80B：なんか も、「くっだらねー」って ゆうやつを やらしたい{よなー／??ヤンナー} なんか。{問}うん、なんか その辺の連れ〈よく一緒にいる友達〉とでも できるような事は あんま したくない{よなー／??ヤンナー}

以上から、確認要求用法において、ヨナは名詞述語の場合以外は適格となるが、ヤンナは話し手個人の評価や判断を述べる場合に(それが聞き手と共有できるものと見込めるとしても)不自然になることがわかる。確認要求用法における2形式の違いについては、次節で考察することにする。

なお、この用法の音調は急下降調(↘)もしくは平調(↔)で実現する。

(60)〔タイのお米は〕おいしい{ヤンナー／ヨナー}{↘/*↔/*↗}

(61) あんたと二人で、旅行しないかって言うた{ヤンナ／ヨナ}{↘/*↔/*↗}

(62) いい子やったヨナ{↘/*↔/*↗}

以上、本節ではヤンナ・ヨナの分布を4つの用法に分け整理した。本節で述べたことをまとめると表3のようになる。

表3 ヤンナ・ヨナの分布

	ヤンナ	ヨナ	音調	備考
(A) 行為指示との共起	×	○	↓	
(B) 独話	△	○	↗	ネンナ／ネンヨナと置換可の例あり
(C) 情報提示	△	×	↗	ヤンカと置換可
(D) 確認要求	○	○	↓／↗	

○：適格 △：一部適格になる例あり ×：不適格

ヤンナとヨナは共通して(D)の用法を持つが、それ以外の用法ではどちらかが不適格となる。また、ヤンナ・ヨナと共起する音調は用法ごとに決まっているという点を指摘することができる。次節では2形式が適格となる(D)の用法を中心に、それぞれの形式がもつ意味について考えてみたい。

4. ヤンナ・ヨナの意味

本節では、前節までで分かった点を踏まえながらヤンナ・ヨナの意味について考えてみたい。結論から先に述べると、ヤンナ・ヨナの意味はそれぞれ次のように考えることができる。

(63) ヤンナの意味：話し手の中で既に定着している知識・判断について、それを既定事項として提示し聞き手の反応を要求する。

(64) ヨナの意味：話し手を取りまく状況や一般通念を土台として推論・判断した事柄について、聞き手の判断との一致をはかる。あるいは、既に共有している事柄について、一般的なこと当然のこととして談話の場に提示する。

以下、(63)(64)を検証する形で両形式のふるまいを確認していく。

まず、話し手の中で既に定着しているか否かという点は、「話し手にとって不確実な事柄」(65)や「発話の現場で得た情報」(67)についてはヤンナが不自然になるということから確認できる。逆にヨナの場合は、現場の状況からの判断でも良いため、適格となる。

(65) あんまりははっきりと覚えていないけど、確か去年は会津に行った{ ?? ヤンナー／ヨナー }

(66) [落ちたものを食べようとしている]まさか食べへん{ ?? ヤンナー／ヨナー }

(67)〔駐車場で車を停める場所を探していたところ、車に乗り込む人が見えた〕あっ、あの車もうすぐ出る{*ヤンナー／ヨナー} あそこに停めよう。

次に「既定事項として提示する」のか「一般的なこと当然のこととして提示する」のかの違いについて考えてみる。既定事項とは、「既に定まったこと(そのことについてこれ以上議論する必要はない)」ということを表す。前節では、話し手の評価を表す述語に接続する場合にヤンナが不適格になることを確認したが、これは話し手の評価を文脈の中で「既定」とすることができないためである。それに対してヨナの場合には、(標準語の「よね」と同様に推論をへた判断でも用いることができるため、問題なく用いることができる。

このような2形式の違いは、共に適格となる文であっても、ニュアンスの違いとして現れることがある。例えば、

(68) 小学校の時の先生、覚えてる{ヤンナー／ヨナー} 今、校長になったらしいで。

のような例では両形式が共に適格となるが、ヤンナを用いた場合には「当然小学校の先生を覚えているはずだ(覚えているかどうかについては議論しない)」という表現になる。対して、ヨナを用いた場合には「小学校の先生を覚えているはずだと思うのだがそれでいいか」というような表現になる。また、ヤンナとヨナを連鎖させた、

(69) a. カルビっておいしいヨナー、おいしいヤンナ?

b. ??カルビっておいしいヤンナー、おいしいヨナ?

のような例でヤンナの後にヨナが続く文が不自然になるのは、「カルビがおいしいかどうか議論はしない」と示した後で「カルビはおいしいはずなんだがどうだろうか?」と問う文になっているためである。

5. おわりに

本稿では、関西方言におけるヤンナ・ヨナの意味・用法について考察をおこなった。本稿で述べたことをまとめると次のようになる。

- ・ヨナは名詞型活用の述語と共起できない。ヤンナにはこのような制限はない(§2)。
- ・標準語の「よね」と比べると、ヨナには知識提示の用法がなく、ヤンナには行為指示表現に接続する用法がない。また、ヤンナは独話用法でも現れにくい(§3)。
- ・ヤンナ・ヨナの基本的意味は次のようなものと考えられる(§4)。

ヤンナ：話し手の中で既に定着している知識・判断について、それを既定事項として提

示し聞き手の反応を要求する。

ヨナ：話し手を取りまく状況や一般通念を土台として推論・判断した事柄について、聞き手の判断との一致をはかる。あるいは、既に共有している事柄について、一般的なこと当然のこととして談話の場に提示する。

以上のように、本稿では標準語の「よね」と対比させる形でヤンナ・ヨナの意味・用法の整理をおこなったわけであるが、そのために十分に論じることができなかった点がある。例えば、ヨナがなぜ名詞述語との共起で不自然となるのか、また、ヤンナと当該方言の確認要求表現であるヤンカとの関係などは考察する余地が残されている。また、命令形に接続するヨナや確認要求用法のヤンナは「ヨナ」「ヤンナ」という複合形式として分析すべきかもしれない。これらの点については、別の機会に考えてみたい。

【注】

- 1) 本稿は、文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)「日本語諸方言における確認要求表現の記述的研究」(研究代表者：松丸真大)の成果の一部である。
- 2) 本稿では、考察の対象とする形式をカタカナ表記で示し、それ以外の形式はひらがな表記で示す。ただし、真田ほか(1999)からの引用はこの限りではない。注3を参照されたい。
- 3) 真田ほか(1999)からの談話例を引用する場合には、「6-80B」のように「談話番号—発話番号と話者記号」という形式で示す。また、談話に現れる形式は漢字かなまじりで表記する。ただし、談話に現れた例以外の形式で適格性判断を示す場合には、談話に現れていない形式の方をカタカナで示す。したがって、次例では「よな」が談話に現れた形式であり、「ヤンナ」はこの文脈で筆者が適格性を判断した形式であることを示す。

・8-159A：んー あれ 四日やっ、……やった{よな／??ヤンナ}。

なお例文中で用いられる記号の意味は次の通りである。

{ } 非言語行動、談話の場に関する状況

() 脱落した助詞および語句の補充

< > 語句の説明

- 4) 筆者の居住歴は次の通り。0～15歳：京都府京都市、15～23歳：東京都江戸川区、23歳～：大阪府北摂地域。なお、用例の中で筆者が不安な部分に関しては、別の関西方言話者に確認をとった。
- 5) 次の例のように命令文でヨナが適格に見える例がある。

・〔上司がいつも文句を言うことについて、同僚に向かって〕

そんなに文句言うんやったら、自分でやれヨナー。

この例に関しては§3で述べる。

6) ヨナだけでなく、ヨ単独の場合でも名詞述語や形容詞述語との共起が不自然となる。

- ・ あいつ最近元気 { *ヨ / ?? やヨ / やデ }
- ・ あその制服って学ラン { *ヨ / ?? やヨ / やデ }

ただし、「元気やヨ」「学ランやヨ」という言い方が無いわけではない。関西の若年層（特に女性）が使用することがある。

【参考文献】

- 金水 敏（1998）「談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究」堂下修司・新美康永・白井克彦・田中穂積・溝口理一郎編『音声による人間と機械の対話』オーム社
- 真田信治・井上文子・高木千恵（1999）『関西・若年層における談話データ集』（平成9—10年度科学研究費補助金（萌芽的研究）「関西圏における「ネオ方言」談話の収集」研究成果報告書）
- 日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版
- 蓮沼昭子（1992）「終助詞の複合形『よね』の用法と機能」筑波大学つくば言語文化フォーラム編『対照研究 第2号：発話マーカーについて』、pp.63—77
- （1995）「対話における確認行為—「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法—」仁田義雄編『複文の研究（下）』くろしお出版、pp.389—419
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『モダリティ』（新日本語文法選書4）くろしお出版

【謝辞】

本稿の草稿段階で高木千恵氏には重要な指摘をいくつもいただいた。また、齊藤美穂氏、日高水穂氏、藤田保幸氏、山田敏弘氏（五十音順）にも有益なコメントをいただいた。記して感謝申し上げたい。

（文学研究科助手）